

同

立谷長康君

九月二十三日……震災各地關係者に對し見舞狀三百通發送す

十月三十一日……中等部一年級より今回聖墓會設立の事、書類取纏

め右級長より届出あり直に副會長へ申告す

十二月十八日……入營者松永良詮(中一)に對して囑として書籍一

贈呈す

二月十六日……(十三年)宗祖降誕會

本年は例年の晝間裝飾を全廢し十三、十四、二日間地方布教に赴

き十六日夜間は學生宣傳劇を開く、本年は總べて委員組織に變へ

準備實行決算に關して委員參與し幹事此を處理す晝間布教部は別

に辯論部報に擧ぐ夜間演藝左の如し

順序

一、小供會宗歌 午後六時十分

一、開會宣言 江原幹事

舊劇 二幕

一、大正壺坂 二幕

喜劇 二幕

一、觀音の眼 二幕

時代悲劇 二幕

一、變スレバコソ 櫻狩

印度聖劇 三幕

一、聖者の後半生 三幕

作者 鈴木教授

一、西洋大奇術 四幕

大喜劇 四幕

一、電氣應用 降誕の囃

一、閉會の辭 江原幹事 以上 午後十二時半閉幕。

顧みるに過去一ヶ年の消長は星々繰返さるる行事には過ぎないが確かに學徒の氣勢は進展の間に日夜昂まつて來て居る。院長市法主を會長に、教頭富木鏡廣師を副會長に、小川教授、辯論部長、中條教授文學部長、松木教授運動部長に各師の英裁に依つて幹事其の實務に酬ひて、一般學生の襟度ある充實心に唆かされて聊か會の面目と方針とを廣めて行く事は何と云つても喜ばしい、聖團の睦みが自ら躍如として山の隅々に輝き初めて居ればなるまい。未だ疲せざる生命者の對時だもの何で精華を實らさぬわけには行かう。

辯論部報

~~~~~

從來の講演部を本年度の定期大會に於て辯論部と改名するに至つたのは。潑刺たる氣概の所有者たる一百余の祖山生が自然に對して其の辯舌を練つて居る歴史は決して單時ではない。四季交々或ひは岩壁に登り、高丘に至り、綠樹密林を友として獅々吼の日を續けて居た事の積重!! 是がドウシテも講演の境から立脚を變へて辯論の希望に面した所以でもあつたらう。一般社會の辯舌に較べてもだが殊に宗教家の動く所として此の辯論の必要を感じない事はない。雄辯は人格の聲であり、人生における最も高い證明であり、人間生活の最大代表であると云ふ。而かも新文化建設に倦きを知らない、怠忙場裡の民衆を最も能く擔ひ得るものは是亦偉大なる雄辯である。近代の祖山雄辯史!! 其れは矢張り此の學園の裡に其の豊醇な材料

を取らねばなるまい。十二年度に於ける此に屬する部報を今二種に分つて大要を見やう。

即ち一は遠征的方面及び地方布教と二は山内説教及び學院定期雄辯會である遠征的方面としては

五月十六日……東京大崎日蓮宗中學主催中學生雄辯大會に本會より中五高山惠忍君を派遣す君は演題『鼓翼を越へて』の下に雄辯を振ひ好評を博す附添人として岡幹事同行。

二月 四日(十三年)……同大崎大學主催全國大學雄辯大會へ本會より高二幹事江原勇君を派遣出席せしめたる所……大崎大學講堂

時……二月四日正午より  
演題……流底を敲いて

因みに大學雄辯會へ參加した事は學園雄辯史あつて以來最初の試みにして幸ひ在京同志會員諸彦の應援によつて相當な責を果す事が出来た。

四月 三日——四日……依頼に應じて高三岡觀修君、高一下田光泉君の二氏を切石及び附近の小學校等に於いて公開布教をなした。

四月 六日……本郡飯富村本成寺の依頼に應じ岡觀修君出張布教をなす。

二月十三、十四日(十三年)……宗祖降誕會に當つて本年は改新して二日間地方布教をなした。

布教地等は左の如し

第一班……切石、飯富、下山方面

布教員……岡觀修君、下田光泉君、花島寛瑞君

第二班……南部、成島方面

布教員……戸田周妙君、富田海音君、高山惠忍君

第三班……内船、萬澤方面

布教員……福島瑞岳君、秦觀行君

右布教に於いて各班共通材の關係も勿論あらうが又一方各地の寺主、信徒諸氏の絶大の援護に俟つて意外の効果を認め注益甚大であつたらしい。

第二の山内説教及び定期雄辯會の情報を擧ぐれば、因みに山内説教は毎年度初め幹事其表を製して順番に試みてゐる關係も多數に及んで居るので是亦煩に流る、故除かう。其中、二月十六日(十二年)の山内大擧傳道のみは其の學生一般の努力の最も多とする處があつたから茲に記さう。

布教期間 五月十五日より六月十二日に至る約一ヶ月間岡幹事總ての責を負ふ。

傳道番組

- A. 組……福島君、田中君、原君、森島君
  - B. 組……戸田君、花島君、小野君、吉川君
  - C. 組……江原君、松尾君、池上君、秦君
  - D. 組……竹内君、高山君、山口君、堀内君
  - E. 組……太田君、中條君、高崎君、渡邊正君
  - F. 組……野崎君、富田君、立谷君、今村君
  - G. 組……深澤君、間宮君、池田君、風間君
  - H. 組……岡君、渡邊泰君、望月君、鍋谷君
- 書開奉仕の疲れも慰得て、高張りを先頭に校旗を幹事護り、辯士此に聲援を加へ校歌を誦ひ乍ら三門から平田屋前の布教陣地に進み行く夜の若僧の傳道の姿を見た度に、思はず戶外に飛び出て囑

承るのであつた。斯ふした若き學僧の教化の手によつて靈山覺めなば……の希望を隠しなく標示して行く憶出は何時の何時迄、驚峰自他の耳朶を鳴らしてくれる大ききであらう。

定期雄辯大會……  
十一月七日……第二學期選出雄辯大會本日午後一時より開會、遠藤、鈴木、小川、松木、猪口諸教授臨席、午後四時閉會。

プロگرامム

- 閉會の辭  
私の伴侶に  
大地に足づけ  
學びの雄  
吾國民性の發輝  
青春の目醒め  
法華經の哲學的發輝と精進の一路  
哲理の人生より  
餘の夢の間に  
講評  
閉會の辭  
二月二十三日……第三學期選出雄辯大會  
プロگرامム
- |         |         |    |        |
|---------|---------|----|--------|
| 野崎 幹事   | 野崎 政信君  | 中一 | 野崎 政信君 |
| 中一      | 田代 寛秀君  | 中二 | 田代 寛秀君 |
| 中三      | 森島 見薩君  | 中三 | 森島 見薩君 |
| 中四      | 池田 壽良君  | 中四 | 池田 壽良君 |
| 中五      | 池上 堯光君  | 中五 | 池上 堯光君 |
| 高一      | 鈴木 正光君  | 高一 | 鈴木 正光君 |
| 高二      | 福島 瑞岳君  | 高二 | 福島 瑞岳君 |
| 高三      | 太田 純志君  | 高三 | 太田 純志君 |
| 小川 辯論部長 | 小川 辯論部長 |    |        |
| 江原 幹事   | 江原 幹事   |    |        |
- 開會の辭  
生命の祭壇に額きて  
流れに直而して  
永遠なる青年の意氣を愛せよ  
跳きより力へ
- |       |        |        |
|-------|--------|--------|
| 松村 幹事 | 中一     | 近藤 惠聰君 |
| 中二    | 平地 樞明君 |        |
| 中三    | 増永 大謙君 |        |
| 中四    | 今村 惠眈君 |        |

- 願望の巷に立ちて  
心靈の苦悶  
大學雄辯會報告  
日蓮上人の人生觀  
講評  
閉會の辭  
以上
- |         |         |
|---------|---------|
| 中五      | 高山 惠忍君  |
| 高一      | 佐野 玄榮君  |
| 高二      | 江原 亮勇君  |
| 高三      | 岡 觀修君   |
| 小川 辯論部長 | 小川 辯論部長 |
| 野崎 幹事   | 野崎 幹事   |

靜寂な靈山法關に而かも斯ふした若人の群が此の地に眞に芽生へて、生命線上に雄辯の苑を趁ひ見て、自由と、豊醇と、實虔と、犠牲とに満たされた人格と成り變つて雄舞の世の壇上に其の永年月の積疊を語る時嘯かし、吾に訓へた聖がドンナにか喜してくれるダロウ、大空の風にも似て何等の妨害なき此の試練の自然と恵みの時間とを誰が一番活用して此の美風者たる月桂を冠むるの士は誰ダロウ。

一九二四、……二、(白線記)

## 文學部報

物質文明文化で築き上られし華の都も昨年九月一日突如として襲ひ來つた震災の爲め、果敢ない運命に依つて破壊されてしまつた。人間の手で造つたものにどんなにしたつて不滅の生命を賦與する事が出來様筈はない。

して見れば物質文明の賜物も大自然の前にはなんの威力だにもないではないか

今まで宗教といふものに何等理解なき社會の人々は此の災あつて以來宗教の偉大なことに目醒め宗教崇拜の觀念が増してきた。